

矢作川流域圏懇談会通信

R7 市民部会編 vol.3



発行日：令和8年3月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第21回市民部会WGを開催しました！

第21回市民部会WGでは、今期の活動目標および公開講座に関する情報共有・意見交換を行いました。

日時：令和8年2月10日（火）14:00～16:00

会議場所：豊田市崇化館交流館 視聴覚室

参加者：14名 ＊事務局含む



◆主な会議内容

1. 今期の活動目標について



市民部会における第16期の活動目標を下記の通りとし、内容を共有しました。

- 流域への情報発信
 - ・食と農業に関する情報共有や活動を目的としたチームを作成し、その内容をWGで情報共有・意見交換する。
 - ・公開講座として流域市民の方への発信も検討する。
- 地域部会と連携
 - ・地域部会と連携して流域の課題を流域市民の方に知っていただく機会を設ける。
 - ・矢作川流域圏懇談会の活動や矢作川流域の課題を流域市民の方に発信していくために地域部会と連携して「農業、海、森林、里山等の現状・課題」をテーマとしたイベントを開催する。
- 新たなつながり
 - ・矢作川流域圏懇談会のネットワークを活用して流域内外で新たなつながりを広げる。
 - ・流域圏懇談会の活動と関連する団体・個人への訪問・招待やイベント参加などを引き続き行っていく。（矢作川感謝祭・三河湾大感謝祭等）
 - ・流域内の外部団体と連携を強化していき、流域のことを知っていただく場を設けて大学や市民の方も巻き込んでいく。

2. 公開講座に関する意見交換



松沢氏より第6回公開講座の趣旨、講演者の候補、公開講座の進行、公開講座の時期・場所・実施方法などの案が提示されました。

公開講座の趣旨としては以下の考えが示されました。（松沢氏提供資料より）

- ・流域の農業を軸に、「今後の流域農業のあり方」、「未来世代に農をつなぐには何をやればよいか」、「安全な食を確保するための流域連携」などが着地点になると考える。
- ・キーワードとしては、「有機農業」、「生物多様性」、「食の安全」、「地産地消」、「資源循環」、「流域連携」などが挙げられる。
- ・講座参加者に現代・未来の「農」について問題意識をもっていただくことが重要である。

提案を踏まえ、講演者の候補や構成、ディスカッション形式の検討、実施時期・場所について意見交換を行いました。また、全体の構想として、2段階開催が提案され、第1回は農業の問題提起、第2回は具体的事例を交えたディスカッションを想定しています。

本日の意見を踏まえ、後日詳細を検討します。



◆話し合いでの主な意見（・意見 ▶回答）

●公開講座に関する意見交換

- ・ 土が大事であると考え、吉田先生の話が聞きたいと思う。本人は土が変わると体調が良くなったという経験をされている。（井上）
- ・ 懇談会の講座であるため、懇談会の趣旨を理解してもらえの方がよい。健全な流域圏を構築するための食と農業に関する議論をするので、懇談会のメンバーで話ができる方がよい。（近藤）
- ・ 持続的に公開講座を行うことを考えると講師料も気にかかる必要がある。候補者の中で優先順位をつけて、直接交渉できる方がよい。（近藤）
- ・ 農を流域で確保するという認識が市民の方々には無い。ディスカッションが重要であり、どうしたら流域の農が地域の方々に理解して支えていくことができるかという視点が重要である。（山本）
- ・ 医療系大学で農学部にも所属されている秋津先生は、食が環境を変えようという考えであり、市民へのアプローチとして食に関心を持ってもらえる。ディスカッションもしっかり行っていただける先生なので、推薦したい。（藤永）
- ・ お金で買える食ということになってしまっている。公務員的な役割を持って農業をすべきである。都市部の方々が農業体験を通じて、食と農業の関係を理解することが重要と思う。（山本）
- ・ しっかりと収入を確保して農業を持続的に行う必要がある。農業を行わないとソーラーパネル化し、一度ソーラーパネル化すると元に戻せない。田んぼを失うことの怖さや現状を市民の方々に知ってもらいたい。（松沢）
- ・ 意思がある人、現状に気づいた人だけが農業に従事しており、そこに任せているだけでは何も変わらないため、国土保全のためにも公務員的な役割を持って農業をすべきである。（近藤）
- ・ 実際に農業に従事していて危機感がある。毎年、農業従事者が減っていく印象があり、どうやって田んぼを維持していくかを考えている。水路の維持の大切さ、生物多様性などを肌感覚で実感している。実践している方の話を流域圏の中で共有していくことも大事と考える。（宇角）
- ・ 岡崎市では、水がどこから来ているかを市民の方々に共有する「未来へつむぐ岡崎の水プロジェクト」がある。自然のことを知らない方も毎日使う水については考える取っ掛かりになるため、プロジェクトの話をしてもらえるのも良いと思う。（沖）
- ・ 農業が市場経済の中でお金の問題になってしまっている。市民の方々に体験・経験してもらうことが大事であり、どの水を利用してどのような作業を行うのか知ってもらう必要がある。（山本）
- ・ 農業に加えて水の分野でも、GDP を中心とした価値観だけでは不十分であり、別の価値基準が必要である。（井上）
- ・ 矢作川流域の資源環境の中で農業に従事しており、常に自然を気にしている。市民の方々も体験してほしい。「食の安全」が最初のテーマとして来るべきだ。「資源循環」、「流域連携」に関しては外部の方にとってわかりにくい。食が安全であれば、多くの方が買うため「資源循環」、「流域連携」もおのずと可能となる。（野田）
- ・ 講演者はあとのディスカッションにつながる基調となる話をしてもらいたい。農業を行うことによって社会環境、自然環境にどのような影響が発生するかを系統的に話していただける方がよい。（光岡）
- ・ 日本は資源大国であり、土と水に恵まれている。今、このような資源を保全しないと次の世代がつぶれてしまう。このような危機についても話してくれる方がよい。（松沢）
- ・ 二つ案があり、一つは基調講演を短めに行い、その後ディスカッションを長めに確保するという案である。もう一つは基調講演ではなく、流域で農業が行われている方々に事例を話してもらい、その後ディスカッションを行うという案である。（近藤）
- ・ ディスカッションにおいて農業従事者の話をする。他人事ではなく自分事にするためにはどうするかという話と、流域内でどう自給するかという話で2回開催がよい。（山本）
- ・ 若者にも興味を持ってもらうためには入り口として水の観点が必要であると思う。（沖）
- ・ テーマに関わらず、懇談会のメンバーが直接働きかけないと若い方は中々来ないため、接点を持つことが重要である。（近藤）
- ・ 1回目は矢作川流域における農業の問題提起を行い、具体的なディスカッションを2回目に行うのも良いと思う。（松沢）
- ・ みんな5年10年後も農業が続くと思っているためその危機感は訴える必要がある。農業や環境に興味を持っている学生が多いため、訴えれば若い人にもたくさん来てもらえると思う。（山本）
- ・ 学生も農業に関心を持っているため、未来総合プログラムと連携し、学生への広報をしていきたいと思う。（近藤）
- ・ PT（プロジェクトチーム）を設立し、今年度末までに事前会議を行い、方針を固めていく。（鈴木）
- ・ 本日の意見を踏まえ、第1候補は秋津先生で決定とし、交渉を開始する。（近藤）
- ・ PTは今回のWGの参加者とし、近日中に事前会議を行う。（松沢）

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課（cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp）までお送りください。

